

5 番 瀬 戸

受付番号第5番、質問議員5番、瀬戸恵津子でございます。

私は、「過去の一般質問への対応は」について、質問いたします。

令和3年12月定例会及び令和4年6月定例会にて行った一般質問における
検証として、以下の質問をいたします。

1、山北駅のトイレは、観光立町としてふさわしい建物にすべきと令和3
年12月定例会の一般質問で提案したところ、JR東海に要望していくが、町
として建設できるかについても検証すると答弁された。令和9年度に駅舎の
建て替えが予定されているというが、要望活動を含め、その後の取組状況は。

2、令和3年12月定例会の一般質問で、山北駅前商店街の活性化について、
国の補助金を活用すべきと提案したところ、リーダーシップを発揮してもら
える人材の育成を考えていると答弁されたが、その後の取組状況は。

3、令和4年6月定例会の一般質問で、健康寿命を延ばすためには、フレ
イル予防（心身の活力が低下し、生活機能に衰えが開始する状態になる）に
取り組むと答弁されたが、座学だけでなく、筋力増強を取り入れるメニュー
の実技とともに、若い世代も楽しめる場づくりが必要と考えるが、町として
はどのように捉えているか。

以上でございます。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、瀬戸恵津子議員から、「過去の一般質問への対応は」について
の御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「令和9年度に駅舎の建て替えが予定されてい
るというが、要望活動を含めその後の取組状況は」についてであります
が、令和3年12月定例会の瀬戸議員からの一般質問の中で、山北駅前のトイレ
を話題性のあるものにして、観光の目玉として集客につなげたらどうかと
いう御提案をいただき、町としては町民の皆様や観光客の要望を伺いなが
ら、JR東海に引き続き要望していくと回答させていただきましたが、J
R東海からは、電車車両内にトイレがあり、無人駅のトイレは撤去する方向
性が示されており、町としては整備することも検討しなければならないと
回答させていただきました。

また、町内には非常に多くの公衆トイレがあり、その老朽化対策や維持管理なども含めて検討しなければならないということもお伝えさせていただいたところです。

まずは、J R東海への要望状況についてでございますが、直近では本年1月に同社静岡支社を訪問し、「全駅トイレの環境整備を実現してほしい」として強く要望してまいりました。

また、新たにJ R東海から、「令和9年度に山北駅の駅舎を建て替える予定があること」と、「駅舎の建て替えに際し、利用状況に応じた小規模の建物とし、トイレの併設はしない」旨の考えが示されました。鉄道を利用する方々の町の主要な玄関口が山北駅であることは変わりないと考えており、その玄関口を同社の考えに同調し、小規模なものとすることは望ましくなく、町として駅舎整備を担うことも考えなければならないと思っております。その際は、今ある切符販売所確保と、できれば町の特産品などを買い求めることができる施設等も併設し、トイレ整備等も含め検討していきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「山北駅前商店街の活性化について、国の補助金を活用すべきと提案したところ、リーダーシップを発揮してもらえる人材の育成を考えていると答弁されたが、その後の取組状況は」についてであります。山北駅前商店街の話題として、山北のお峰入り記念公演が昨年10月8日に開催され、その際に山北駅周辺で道行きが行われました。公演を見に来られる方、多くの方々に山北町のことを知っていただくため、歴史的な鉄道遺産でもある蒸気機関車D52を用いたフェスティバルも同日開催することとし、おもてなしのために商工会を中心とした検討組織が立ち上げられました。

この検討組織には、商工会本部役員、女性部長や青年部長、商業委員長のほか、お峰入り保存会や町も参画して意見交換をし、お峰入りの公演当日、山北駅周辺を盛り上げる一翼を担っていただいたものと考えております。

この検討組織の会議では、これまでのイベント開催による集客だけではなく、お峰入り記念公演に訪れた方々をもてなすためにはどのような取組が考えられるか、何をすべきか等新たな視点での意見交換が行われ、イベ

ント開催時間の調整、回遊性を持たせたイベントの検討や動線などが議論されたことは、一つの成果であったと考えております。

また、山北駅周辺に近年出店された方の中には、移住された方だけではなく、他市町に住みながらも新規出店をした方々がおります。このような方々は、出店条件などがこれまでとは違った視点で事業化に至っているのではないかと考えておりますので、そのような方々と意見交換をすることで、今までにない活性化に向けたアイデアが出てくることも期待できるのではないかと考えております。

今後は商工会の方々だけでなく、新規出店をした方々も交えた会議を定期的で開催し、来訪者へのおもてなしの機運が高められれば、活発な意見交換がなされ、おのずとそのメンバーの中からリーダーシップを発揮していただける方、そして協働による商店街の活性化を図っていただける方が出てくると考えております。今後も商工会と連携し、次世代を担っていただく方々の人材の発掘と育成に注力してまいります。

次に、3点目の御質問の「座学だけでなく、筋力増強を取り入れるメニューの実技とともに、若い世代も楽しめる場づくりが必要と考えるが、町としてはどのように捉えているか」についてであります。町では、令和4年度からフレイル予防事業に取り組んでおり、これまでに2回フレイルサポーター養成講座を開催し、現在23名の方がサポーターとして、フレイルチェック測定会の開催等をしております。

筋力増強はフレイル予防において重要な要素であり、測定会后、御自身の体の状況を把握した上で実際に体を動かしていただく事業としては、主に前期高齢者を対象として、強度を高めた体操を行う「ブナの木塾」や「水中運動教室」、「ポールウォーキング教室」などがあります。いずれも運動習慣の定着や筋力増強も含めた運動機能の維持向上を目指すもので、実際に体を動かす機会が増えることで、フレイル予防につながると考えております。

一方、若い世代が楽しめる場づくりについてですが、フレイル予防のポイントは、運動することだけでなく、しっかりかんでしっかり食べること。サークル活動やボランティア活動など地域の活動などに社会参加をするこ

とをバランスよく実践することが大切です。

多世代との交流をすることは、高齢者にとっても、若い方にとっても大切なことですので、健康づくり事業に様々な年代の方に参加していただけるよう工夫するとともに、若い世代がより重視する「楽しむ・楽しめる」事業としており、これまで以上に積極的に専門職が関わり、フレイルチェック測定の結果を活用した保健指導や栄養指導の実施、介護予防事業やポールウォーキング教室、水中運動教室といった健康づくり事業、その他の自主サークル活動などへの参加につなげていきたいと考えております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 御回答ありがとうございました。

J Rの駅舎の改築については、回答書にありますように、小規模の建物とし、トイレは併設しないという考えを示されたということで、そういうことかもしれないと思っておりましたが、それに反して、町の力強い町長からの御答弁、駅舎の整備を行うことも考えなければならないと思っておりますということと、今ある切符販売とできれば特産品などを買い求める施設も併設して、トイレの整備を検討していただくという決意を伺いまして、大変期待するところでございます。

J Rの9年の改装とは別ものになるということになるのでしょうか。例えば、建物はJ Rが小規模ながらのものを造ると言ってるんですが、それとは別に町で、その中で一緒に併設した中で財政的な、入れて町がやるという、そういう形で理解してよろしいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 ありがとうございます。私としても、J R東海さんのほうにはいろんな意味で毎年要望活動をさせていただいております。その中では非常に先ほど答弁したように、トイレは造らないとか、駅舎も小さいものにするとか、そういったようなJ R東海さんの方針、そして裏づけとなっている乗降客の数とか、そういったものも各駅全部比較して、いつも説明させていただいております。

そういう中で私が参考にするのは、小山足柄駅です。町が、小山さんがお金を出して、ああいうような立派な駅にしております。この方法について、

まだ我々も詳しいことを知りませんので、あれが一つのたたき台になるのかなというふうに考えております。

私としては、J R 東海が造ったものと町が造ったものは別々に二つ造ってしまっただけで、こういうふうになったら一体感がないわけですから、それはないだろうというふうに思っております。ですから、特に小山さんを参考にしながら、一体どのような方法であれを造ったのか、そしておそらく所有権は町にはないのではないかなど。J R 東海さんの敷地のところに建てるわけですから、おそらく所有権というか、どういうふうになるか分かりませんが、そういったようなことはどうなのかということは参考にさせていただきながら、私のイメージとしては、小山さんのやられたようなことが山北でもできないかというふうに考えておりますので、これから小山さんを参考にしながらいろいろ手順とか、やり方とかそういったことを検討してまいりたいというふうに考えております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 足柄駅の某建築家の建物ということも含めて木造を使っていくと、また町のコミュニティ的な要素を待合室というか、コミュニティの要素も入っていて素晴らしい駅ですので、ぜひ参考にさせていただいて、山北の新たな、インターチェンジが新たな玄関口と町長おっしゃってますけど、先ほどの一般質問の中でも聞いておりましたところ、インターチェンジから出てきた東京、横浜、あと圏央道の方の流れを、ぜひこっちのD52のほうとか、またできれば公園、いろんな公園がありますので、そういうものの山北町の魅力、山北らしさがこちらのほうにも、何となくインターチェンジ、向こうの話だよという、町の中の方もいらっしゃいますけれど、やっぱりそこに山北の駅も、できたら昭和レトロを入れてほしいんですが、そんな感じのものにさせていただいて、こっちに集客が来て、また観光客が町全体の中で動いていけるような形になっていくことが一番望ましいことだと思うので、ぜひこのように進めていただきたいと思います。大変期待しております。

あと、ついでと言っただけなんですけど、J R の他市での要望活動、町長の活動の中でよく出てきますが、ちなみに今大体分かるんですが、要望活動というのはどんなことを進めてらっしゃるのか、差し支えなければお話しいただ

議
町

きたいと思います。

長 町長。

長 まず最初に、スマートインターが玄関口というようなことを言っておりますけど、あくまで、あれは車の玄関口、鉄道の玄関口は山北駅でございますので、そういった意味では、鉄道の町としての山北駅は、やはり山北の顔として、しっかりとやっていかなければいけないというふうに考えております。

それから要望活動ですけど、一番の要望活動は、ＩＣカードを使った国府津駅の乗り換え、あるいは精算がスムーズにできないか、そのまま来てしまった方は精算をしないと降りられないというようなことがありますので、その辺りがまず一番要望としては、毎回毎回提案されて、我々も強く言っているんですけども、これに対してもやはりかなり予算がいっぱいかかるんで、やりたいことはやりたいらしいですよ、当然、そういうことができるのであれば、ＪＲ東海さんも、ＪＲ東日本さんももちろんＩＣ化をやりたい。しかし、どうすれば、どこまでできるかというようなこともあるんで、我々としてはとにかく国府津だけやってほしいというそういう要望なんですけど、先方からすると、じゃあ東京エリアまで、関東まで、ほかのところまで、あるいはこっちの名古屋までというようなエリアの問題で、かかるコストが変わってくるというふうに思いますんで、そういったことでＩＣ化に関しては、非常にＩＣカードに関してはハードルが高いんですけども、お互いにそれに関しては駄目だとは言ってませんので。ただ、なかなか難しいというような判断でございます。

それ以外のものについては、かなり地域によって駅ごとにばらばらでありまして、各町の首長さんも出ておられますので、そういったことで２番目に多いのは山北止まりというのをやめてほしい、災害時とか、あるいは松田で止まってしまうとか、そういったようなことは非常に多く懸念されております。あとは、もちろん本数を増やしてほしいとか、そういうのは毎回出るんですけども、これもやはり乗り降りの客数の数字を各駅でぱっと言われますから、これがこのくらいになれば、増やすとは言いませぬね。２両を４両にしますとか、４両を６両にしますとかそういうような一般的な返答が多い

ということで、なかなかそれをぱっと我々の望むようなことにはすぐ行かないんですけども、逆に向こうから困ってるけどと言われるのは、鹿が飛び込んで、年間、御殿場線は割と少ないらしいんですよ、身延線がすごいらしいですね、年間40とか70とか、そのくらい鹿が入ってしまうというようなことを聞いておりますので、そういったことを含めながら進めてまいりたいと思っているんですけど。

印象としては、かなり前よりはだいぶよくなって、我々のを聞いていただける状態にはなってきた。ただ返答、答えはあまり芳しくないというのが今の状況でございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 聞いてはいただけるけど、実行に移すまでのあれがまいちだとおっしゃいましたけど、我々町民としてもできることとして、御殿場線を残すために乗って残すとか地方のほうで言ってますけど、本当にそうだと思うんですね。だから、できるだけ今、松田があれば、JR3,000ぐらい、3,000以上乗っているでしょうかね、小田急のほうはもう2万何千と出ましたけれど、山北は三つの駅で1,500行かないと聞いてますので。ぜひこの際、これは一般的に、皆さんにちょっと広報のところなんかにも御殿場線に乗りましょうとかもキャンペーンみたいなことも、機運も盛り上げていくことも常に必要だと思いますし、山高があれば、山高生が乗ってくれるし、だから山高をなくさないようにしなくちゃいけないとかとか、いろんな町のために多岐にわたって、私たちがいろいろ提案しているつもりなんですけど、ぜひそういう思いを酌み取って、町長も代表者ですので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

次に、それでは1について、駅舎についてはこれからいろいろ検討される建築に関しては、もちろん多目的トイレであって、子どもに優しいとか、今の和式じゃなくても当然でしょうけれども、洋式というのは当たり前のこと、そういうようなもろもろのことを、また町民の声も取り入れながら、ぜひ計画していただきたいと思います。

それでは2に移ります。あと商店街の活性化なんですけど、リーダーを育てる、人材を育てるとおっしゃいましたので、一応あれですか、とてもいい試

みで。この間、昨年のお峰入りは、本当に商工会の女性部の方もいっぱいいろんな品物も考えて販売してくださったりとか、とても協力的で、すごくよかったなと思っております。それでこのように会議をなさって、ああいう成果が出たんだということを伺いました。

一つだけ伺いたいんですが、以前からも提案している方もいたんですが、リーダーとしては地域おこし協力隊の活用ということは、全然山北では検討されてないでしょうか。いかがですか、その点について伺いたいと思います。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長 地域協力隊なんですけど、研究はしてるんですけど、具体的に来ていただくというような形でのことは、まだ進めておりません。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 商工会青年部が本当に頑張っているのはよく分かっておりますが、リーダーとなるような人ということで、本当に協力隊の方はいろんなことで商工会議所で働こうとか、移住を呼び込むコーディネーターをつくろうとか、私たちが長野に行きましたけど、有害鳥獣のハンターとか、リーダー、隊長になってくださる方をお呼びしたとか、もう本当に多数あるんですけど、一応国が補助してくれるので検討にしたほうがよいかと思うんですが、ただコミュニケーションが商工会とかこういう中でやっているのと、一つでも違う力が入ると、またいい考えが浮かぶんじゃないかと思えます。

そのことで協議会とか、そういうものをおつくりになるといいんじゃないかなと。徳島の神山町のことなんですけど、ここでは移住者もちろん、山北もいろんな審議会なんかにも入ってるところもありますけれども、1人とか2人とかなんですけど。移住者と、あと商工会の方のようにもともといる人、そして女性。そして一番のポイントは、山北は割といろいろ団体の長とか、年齢が比較的高いんですが、49歳以下の方でとか、49歳というのは、ちょっと、すごく低過ぎて、青年部の方のぎりぎりのところになってしまうかと思うんですが、60歳ぐらいまででもいいかと思うんですが、とにかく若い人が自分たちの未来をつくるということで、そういう組織体にしていったら、さらに今のあるのに加えて組織体をつくるというお考えはいかがでしょうか。

議 長 商工観光課長。
商工観光課長 今回お峰入りのほうの関係での合同委員会というものを設立された際に、いろいろ出ました。実際に青年部のほうの御意見というの、なかなかやはり出てましたし、ちょっと話が変わってしまうかもしれませんが、今町のほうのイベントなどをする際には、青年部の協力はもう不可欠だと考えているところでございます。ですので、当然のごとく若い力という方たちに支援のほうをお願いしているのは事実でございます。

先日、商工会の事務局ともお話しをさせてもらった中で、新たに出てきたのが、移住されてきた方、新たに店舗を構えた方、そういった方々の御意見もいただけたらいかがでしょうかと。まさしく今回の町長の答弁書の中にもございますが、我々とはちょっと違った観点を持って、視点で持っている方々で、それで山北に来ている方々がいると思いますんで、全然我々が想像してない答えが出てくるかもしれませんので、そこら辺からやはりもっともっと意見をもらうべきだということもありまして、ここら辺はちょっと参考にさせてもらいたいなと考えているところでございます。

以上です。

議 長 瀬戸恵津子議員。
5 番 瀬 戸 地域協力隊の件については、ぜひ御協力願いたいんですが、取り入れる方向性はない、いかがでしょうか。取り入れてみたらどうなのかと思いますが。

議 長 商工観光課長。
商工観光課長 すみません。地域おこしの協力隊というのは、たしか総務省の事業だったと認識しております。現状我々のほうが動いているのは経済産業省関係、中小企業庁関係のものであって、ちょっとそのほうまで研究のほうは進めていません。まずは、今動ける範囲の中を所管課のほうとしては動いてみたいと考えてるところでございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。
5 番 瀬 戸 それでは、そういう縦のいろいろなことは承知しておりますが、国のほうでも本当に2地域居住でサテライトオフィスをつくる自治体に支援するとか、総務省ですね。あと、起業する個人にも支援する、また何かそういうことをする自治体に支援するという、令和6年度からすごく始めているんです

ね。

結局、またコロナが終わって、東京に転入超過になってますので、できるだけ地方にあって、山北本当に80キロ圏内ですし、電車で来れば、それなりに早く来れますし、渋滞がないから。ということで、ぜひほかの商工会もそうなんです、総務省関係の支援については取り組むお考えはございますでしょうか。

議
町

長
長

町長。

前から地域協力隊も含めて様々な国の施策についての提案は私もいただいております。どういうことかという、一つの例えば商店街であるとか、あるいは農業であるとか、そういったようなことに特化した提案をいただくことが多いので、それ自体は悪くないと思うんですけども、こっちをやってこっちはどうなのかとかということを見ると、非常に地域協力隊もやはり趣旨とか、国からのあれが来るからいいじゃないかという考えもあるとは思いますが、私としてはもう少し中身があるようなものをしっかりと提案していただいた中で決めていきたいというふうに考えておりますので。やっぱり私たちがやるわけじゃないんですよ。ただ、国からこういうふうにお金を引っ張ってお願いしますというような中でやるわけですから、やはり受皿となる団体とかについて、しっかりと、じゃあこれは商工会がこういう案でやりますとか、そういったような受皿がしっかりしたところでは、ぜひやりたいというふうには思っているんですけど、それがしっかりなくて、町が何でも考えろみたいな提案をいただいちゃうと、町といたしましても、国に申請を上げて、本当にどこがしっかりと受けてくれるのかというところが、町がそこまで全部入っちゃうというのはどうなのかなというふうには思っておりますので、ぜひそういったようなタイムスケジュールというんですか、目的とか方向性がしっかりしたものについては、町もぜひ進めていきたいというふうに考えております。

議

長

瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬

戸

分かりました。やはりちょっと絞った範囲ということで、今のところ研究会とか、若手の会議が、じゃあ商店街のところを何とかしようとかというアイデアも出てるのでしょうか、ちょっと。

議 町 長 町長。

町 長 具体的に私なんかがよく受けたものとしては、ふるさと納税等に関するものについては、かなり具体的な提案をいただいております。そういった事務局をつくって、そしてそれを地域協力隊にお願いして運営していく、そういうような方法はどうとかいうのは、かなり具体的な提案はいただいておりますけども、なかなかふるさと納税も今現在かなり落ち込んでおりますので、そういった基本的なところをまず改善しなければ、次に行けないだろうというふうに考えております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 ふるさと納税もそうなんですが、山北らしさということが分かる、そして移住者から見た山北という形の視点も大事だと思いますので、ぜひそういう若手の方々の意見で、将来の山北が持続可能な町になってもらわなければ困りますので、ぜひ進めていただきたいと期待します。

次に、3番のフレイル予防について伺います。

フレイル予防、ここにも、御回答にもございます。ポイントは三つありまして、食なんですけれど、口腔ケア、あと運動と社会参加と三つのポイントでやることによって、フレイルを予防しようよということだと思うんですが、令和4年度から取り組んで、これまで2回、多分キックオフが1回、あと1回で、現在23名の方がサポーターとして開催をしておりますと言いますが、どんなふうな、私が把握しているのは、あと秋祭りのときにイベント的なことをやってくださったのは、スポーツの秋祭りのことは覚えてるんですが、その後はどのような進め方をされているんでしょうか。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 令和4年度にフレイルサポーター養成講座を開催しました。その後なんですけれども、フレイル測定会を行ってます。今議員おっしゃられた10月1日のスポーツの秋祭りのとき、それから介護予防塾において3回行ってます。あと、それから12月に65歳以上の一般町民を対象として測定会を行っていません。令和6年度につきましても、65歳以上、年齢を限定する必要もないかと思っておりますけども、一般の町民向けの測定会というのを6年度も継続して行っていきたいと思います。ちょっと回数は何回になるかというのはまだ決めて

おりませんが、できるだけやっていきたいと思います。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 確認なんですけれども、6年度から、65歳以上、一般の方をやるという、測定会を行うという形ですね。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 5年度の12月、昨年の12月に1回、65歳以上の町民を対象としたものを行っていて、それから5年度は、一般町民向けは1回しか行われていないので、6年度はそれをもうちょっと増やしていきたいということでございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 本当に健康寿命を延伸するために、こういうようなことも考えられているんだと思いますが、健康寿命、女性のほうが平均寿命に対して差が多いんですよね、全国平均の話です。それで、町で目標値を出すとか、県が出してないから、まだ町では目標値は出てないよというような以前は御回答だったんですが、出たんでしょうか。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 健康増進計画の改定に合わせて、県がその前に改定するはずですので、県の設定を踏まえて、町も設定すべきなのかどうなのかというところをその時点で判断したいかと思います。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 やはりこれはとても大事なところで、今までいろんな形の予防が、介護予防みたいな体操とか、いろんなものが入ってきたんですが、やっぱり最終的にはここに落ち着くのかなと思っています。それでこれを、ですから年間を通じて、もちろんちゃんと御承知のことだと思いますが、食の時期、運動は常にやる、社会参加を促進するとか、系統立って、ぜひ一般の方に面白がられるような、やっぱり運動をその気にさせるというか、町民に面白そうだな、何だこれはやってみようかなと思わせるようなことが大事なことだと思いますので。その点一つアイデアを出しますが、社会参加のところで、介護ボランティアたちにポイント制度がございまして。ポイント1ポイント、今、調べてなくて申し訳ないんですが、5,000円の上限というのは知ってますし、1ポイントを今いくらの換算でやっているんでしょうか。

- 議 長 保険健康課長。
- 保 険 健 康 課 長 すみません、何ポイントをためたら、いくらの商品券に変えられるというのを手元に資料を持ってきてませんので、ちょっとよく覚えてないんですが、たしか上限は5,000円だったと思います。
- 介護予防塾に来られているボランティアさん、介護予防塾3か所でそれぞれ毎週毎週行っていますので、毎週毎週参加してくれているボランティアさんは、5,000円は半年ぐらいでポイントがたまるといような感じだったと思います。
- 議 長 瀬戸恵津子議員。
- 5 番 瀬 戸 それでは、1回でも5,000円、上限に行っちゃったら、もう次は使えないという形だったんじゃないでしょうか。
- 議 長 保険健康課長。
- 保 険 健 康 課 長 年度単位でやってますので、年度で5,000円分たまったら、そこまでしかない。翌年になれば、また新しいポイントは交付されますので、また5,000円まで出るということです。
- 議 長 瀬戸恵津子議員。
- 5 番 瀬 戸 これはお金のことですので、こっちもちょっと話します。1ポイント、多分、神戸市なんかでも面白いことをやってるんです。1ポイントを10円とかにして、2時間以上で200ポイントがつくと、それでお金に換算して、上限は一応決めてるのかよく分からないんですが、8,000円ぐらいに決めているんでしょうか。それで、このポイントを上げてあげたらどうかなと思うんですね。それについてはいかがでしょう。1ポイントの多分1円だと思うんです。違うかな。
- 議 長 保険健康課長。
- 保 険 健 康 課 長 介護ボランティアポイント制度自体も始まって、もう結構たってますので、そのときから町の商品券に交換できるというもの自体は変わってないんですね。ですので、ただボランティアさんは、そもそも商品券目当てで活動してるわけじゃないわけです。あくまでボランティアポイントというのは副産物みたいなところがあったりするので、ほかのボランティアさんに、あまり興味のない町民の皆さんに食いついてもらうためにやっているようなところが

ありますので。ただ、それが商品券だと、ちょっとニーズに合ってきてないのかなと思う部分は正直感じてます。

例えば、ポイントをためることによって、将来自分が介護状態になったときに何か使えるとか、そういったことがあれば、結構インセンティブになるのかなと思ったりもするんです、なかなかそれも難しいと思うんですが。とにかく商品券をやってきましたが、それはそれでやっていていいと思うんですけども、何かほかの交換ができるというものを、ちょっと時間かかるかと思いますが、考えていきたいなと思っています。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 まさしくそれなんです。ボランティアバンキング、もうずっと何十年か前からボランティアを促進させるために、そういうインセンティブをつけてくれるところもありましたが、山北町ではそれは成立しませんでした。ぜひ、ボランティアさんというボランティアしてる人だけになってしまいますので、一般町民が社会参加するというのがボランティアになる。だから登録してなくても、一般町民でもボランティアはさせてもらえるというか、とにかくボランティアやってる方の社会福祉協議会もそうですし、こっちの介護、健康ボランティアのほうもそうですが、本当に高齢者ばかりになってしまっていて、そのところを何とか改善していかなければ、もう成り立たないと思いますね。

ですから、介護予防という、65歳以上とか範囲が決まってしまうんです。そのところをもうちょっと60歳とか取っ払って、何か町民の方全体でやるようなふうにしていかないと、もう本当に先細りだと思うんですね、その辺をぜひ検討していただくことと、ボランティアバンク、ポイントバンクみたいな形でお金にするか商品券にするか、それは分かりませんが、そういうようなことの改善方法をぜひ私たちも提案しますので、ぜひまた考えて、御検討いただきたいと思うんですが、御検討の中に入れていただけますでしょうか。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 もちろんです。御提案をどんどんしていただきたいと思います。私も、山北町高齢化率はもうとっくに40%を超えていて、ただ、介護認定者は600人ぐ

らいで、介護認定率でいうと、65歳以上高齢者の20%程度。つまり一概には言えませんけれども、逆の言い方をすると80%の方は元気な方なんです。介護認定を受けてないから必ずしも元気とは言えないかもしれませんが、そういった区分けはしてもいいのかなと思ってます。

つまり、すみません、何が言いたいかというと、80%の元気な高齢者に活躍してもらう場、要介護になってる人のことばかり考えるじゃなくて、80%の元気な高齢者が、ちょっと言い方はよくないですけど、高齢者を助けられるような、そういう町というのがいいのかなと思っていて。それには、今議員が言われた介護ボランティアポイント制度というのは、ちょっとだけかもしれないですけども、考えの少しの部分占めるようになってくると思いますので、進めていきたいと思ひますし、御提案はどんどんしていただければと思ひます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 今回も筋肉増強の器具を買ってそろえていただくとかということあまり大きな声では言っていないんですが、やはりそれはレンタルとかリースとかという形でも、前にも伺ったときも、器具だけでならいいんだけど、そこに管理者とか、指導者とか、そういうコーディネーターみたいなものをつけなければいけないから大変だよ。

ですからそういう方、もし町民の中にそういうことができる方がいらっしやいましたら、そういう方にポイントで払っていただいととかという仕組みにもなると、もっともっといいい元気な山北町、高齢者の山北町になると思うんですね。

この間移住のあれで、高齢者が移住したい町ということで山北町がランクインしてましたけれども、それはどんなところが好まれたんだと町長はお持ちですか。

議 長 町長。

町 長 山北町、田舎に住もうとか、そういうので1万人以下のところで4位とかというような評価をいただいとあります。それの中での年代別に分かれておりまして、若い御夫婦の世帯が大体12番かな、たしかなってます。高齢者ですね、65歳から75歳ぐらいの方が4番。そして一人暮らしのところが順位

が出ておりませんでした。総合評価として、4位というふうにいただいておりますけども、やはり都心からそれなりに近くて、自然と、そしてまた住みやすさとか、そういったようなことが評価されたんだろうというふうに思っておりますし、また、特にアンケートに答えた方も、いや、私答えたよという人もいました。そういうような人に評価を伺いますと、やはり山北町というのは非常に面積は多いんですけど、割とコンパクトで暮らしやすい。また子育て環境等についても、ものすごくすばらしいという評価ではございませんでしたけど、それなりに評価できるというようなそういうような感覚だったというふうに思っております。

ぜひともそういったことをさらに広げていくためには、私は越してきた人、移住してきた人にやはり聞かなければいけないというふうに思っております。また、そういう人たちを町がどのように一緒になってまちづくりに参加していただけるかということは、非常にこれから大事なことだというふうに考えております。私もいろいろな各委員会とか、そういったような人をお願いするときにできるだけ移住してきて、町が気に入っている人がおられれば、そういう人にぜひやっていただきたいというふうに考えておりますので。どうしても町をどうするか、先ほどの商工会の話でもありましたように、今度移住された方がそういう役職にも就くそうです。ですから、そういったような外部の目から見た山北町。そして、どういう施策を展開するのがいいのか。また、どうすれば皆さんがさらに移住していただけるのか、そういったことのヒントは、やはり実際に来られた方が感じたことが大事ではないかと。我々がずっと住んでいて、どうしても気がつきにくいところ、そういったところは多々あるというふうに思いますので、そういったことを参考にしながら、町がよりよくなる方法を考えていきたいというふうに思っておりますので、ぜひまたよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

5 番 瀬 戸 くしくも令和9年に駅舎も延びるかどうか分かりませんが、建設するという形になるし、インターチェンジも開通するということで、町が大きく変わっていきけるんじゃないかという多少ながらも期待を持っております。高齢者はあまり口を出さずに、若い人に考えていただいて、若い人が自分のことに

なって考えてくれる、そういう町になっていくべきだというような先生方のお話も聞いておりますが、元気な高齢者も貴重な存在でございますと思いますので、ぜひ大切にさせていただいて、フレイル活動を一生懸命やっていただき、そして移住者にも人気が出る、ぜひインスタ映えするような駅舎の建設の際には、ぜひそういう考えを出していただきたいと思います。

以上でございます。

議
町

長
長

町長。

ありがとうございます。おっしゃるとおり、やはりスマートインター、そして山北の駅舎というのは、やはり山北の二つの車の玄関口、鉄道の玄関口というふうになりますので、山北にとっては非常に大事な駅舎だというふうに考えております。

確かに、今は東山北のほうが高校があるから乗り降りの数は多いです。しかし、もともとの山北というものに抱いていた皆さんの感覚は、やはり鉄道の町、そしてD52もある、また今様々な提案をいただいております。

そういう中で、今後も山北の駅舎は今のような形はどうであれ、残り続けるというのは、私は山北にとっての将来の未来を予測させるようなことになるというふうに思っておりますので、決して駅舎を小さくするとかそういったことは一切考えておりませんので、ぜひ皆さんと力を合わせて、山北の駅舎、駅前を活性化していきたいというふうに考えております。